



『明日の水は大丈夫？』

橋本淳司著

(1480円+税／技術評論社)

筆者は各地の学校で子どもに水問題の大切さを訴える授業をする専門家。日本や世界各地の水問題の現場で感じたことを伝える好評の授業をそのまま本にし、理科や社会科の副読本には格好の教材だ。副題は「バケツ1杯で考える『水』の授業」。例えば、日本人は1人1日で25杯分の水を使い、水道からは1分間に1・2杯分の水が流れる。茶碗ちやわん1杯の米の生産にはバケツ28杯分が必要で、水道水はバケツ1杯1・53円だ。西アフリカの村では一日1杯分も使えないという。バケツを1単位に様々な問題を比較できる。(山)